

郡山市セーフコミュニティ推進協議会

交通安全対策委員会 活動報告



報告者 委員長 安部 賢児

交通安全対策委員会を設置した理由

外因による死亡者数 2009～2015年の死者数を合計

図1

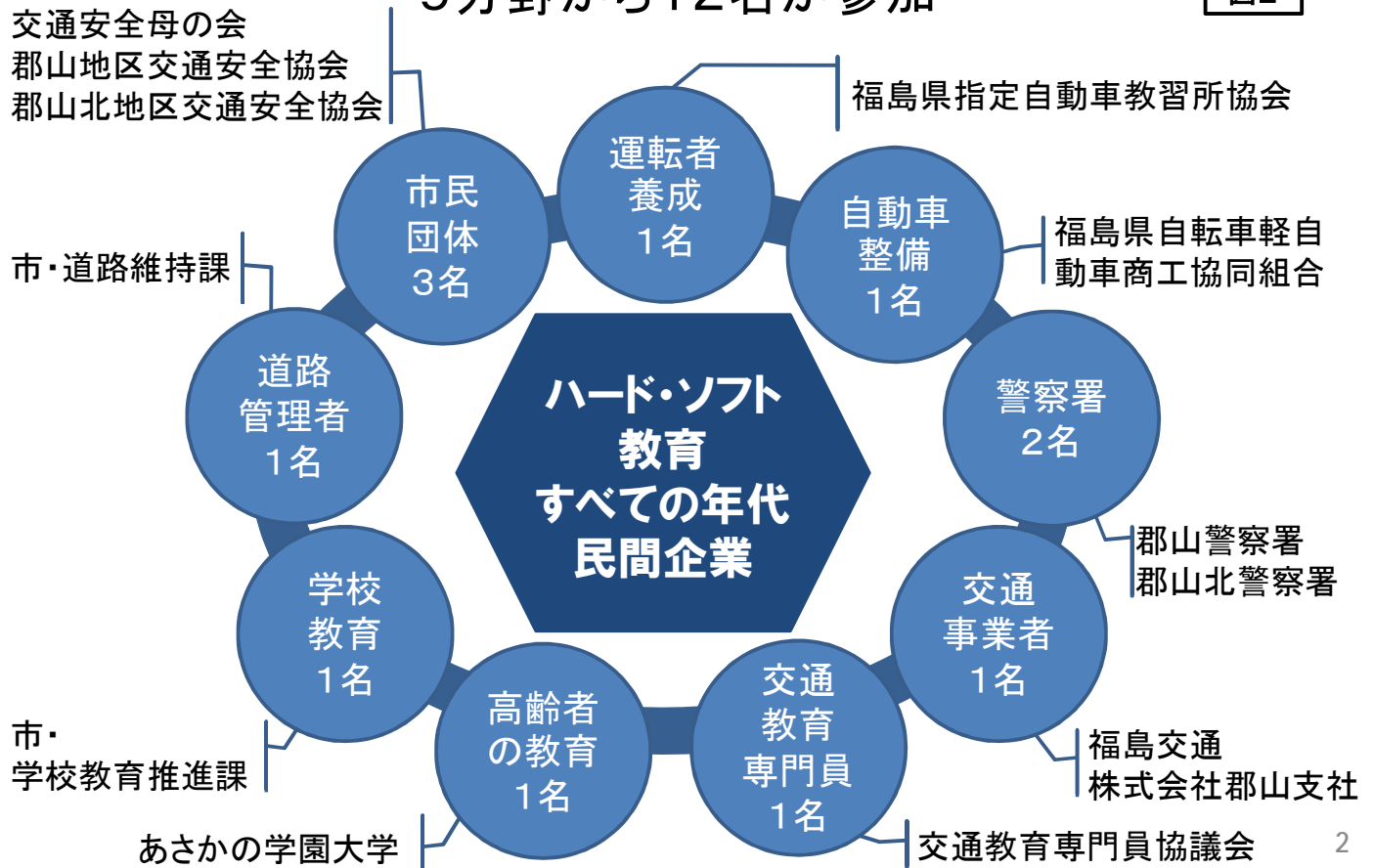
年齢層	1位		2位		3位	
0-9歳	窒息	3人	交通事故	2人	転倒・転落	1人
10-19歳	自殺	10人	交通事故	4人	溺死・溺水	2人
20-29歳	自殺	70人	交通事故	7人		
30-39歳	自殺	70人	交通事故	9人		
40-49歳	自殺	92人	交通事故	17人	窒息	5人
50-59歳	自殺	106人	交通事故	18人	溺死・溺水	9人
60-69歳	自殺	78人	交通事故	21人	窒息	16人
70-79歳	自殺	47人	窒息	35人	交通事故	32人
80-89歳	窒息	96人	転倒・転落	39人	溺死・溺水	33人
90歳以上	窒息	46人	転倒・転落	19人	自殺	33人
合計	自殺	511人	窒息	212人	交通事故	132人

交通事故による死者は、幅広い年代で2位

交通安全対策委員会の構成

9分野から12名が参加

図2



これまでの活動経過①

図3

回	開催日	目的	活動概要
1	7月8日	研修、データ確認	・セーフコミュニティ研修 ・地域診断2014年等のデータ確認
2	8月4日	主観的な課題の検討	・各委員の主観的な課題を検討
3	9月15日	客観的な課題の検討	・データからけがや事故の特徴を把握
4	10月13日	重点課題の抽出	・問題の分類、データとの関連を確認
5	11月10日	重点課題の抽出	・課題の優先順位付け
6	12月14日	方向性・対象の検討	・環境、教育、規制の検討
7	1月18日	具体的対策の検討	・現在行われている対策の確認と その活用や改善、これまでにない連携、 協働の検討
8	2月15日		

これまでの活動経過②

図4

回	2016年度	目的	活動概要
9	5月23日	具体的対策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 既存の取組みを活かす工夫 新たな連携、協働の検討
10	6月7日		
11	7月12日	具体的対策・追加データの検討	<ul style="list-style-type: none"> 活動指標、成果指標の検討 不足しているデータの洗い出し
12	8月4日		
13	10月27日		
事前指導	11月8日～9日	活動報告・審査員による助言	
14	11月25日	<ul style="list-style-type: none"> 事前指導の振り返り 尚志高校生との意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 助言の確認、対応検討 登下校における交通安全に関する意見交換
15	12月8日	事前指導の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 助言の確認、対応検討
16	1月11日		
17	1月19日	具体的対策・追加データの検討	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故多発地点マップの作成
18	2月14日		<ul style="list-style-type: none"> こどもの安全対策委員会との連携確認
19	3月10日		<ul style="list-style-type: none"> 交通事故多発地点マップの作成

4

これまでの活動経過③

図5

回	2017年度	目的	活動概要
20	5月18日	成果指標の検討	<ul style="list-style-type: none"> 活動指標、成果指標の検討
21	6月15日	成果指標の検討	<ul style="list-style-type: none"> アンケート内容の検討
22	7月3日	具体的対策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の運転免許返納促進チラシの作成
23	7月31日	成果指標の確認	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果の分析
24	8月23日	具体的対策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故多発交差点マップのポスター化についての検討
25	9月21日	具体的対策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故データの再確認
26	10月27日	推進協議会での報告	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みについての活動報告
27			

5

主観的な検討 第2回対策委員会



ワークショップを開催
主観的な意見を出し合い
皆で共有

この時点で出された主観的な課題、問題など ~主なものを掲載

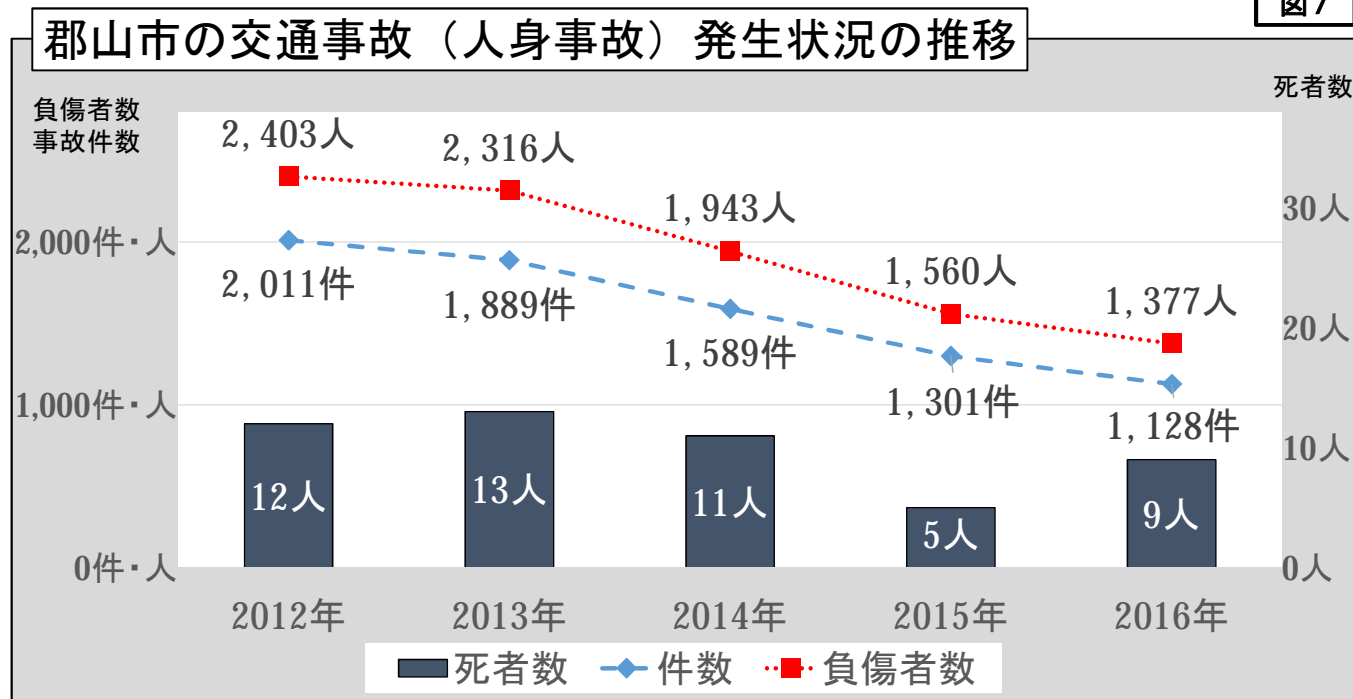
図6

自動車の運転マナーが悪い	高齢者の運転が心配、事故が多い
自転車の運転マナーが悪い	朝と夕方に交通事故が多発している
道路の白線が消えているところがある	方向指示(ウィンカー)を出さない、遅い
高齢者の交通安全の声掛けを広めたい	運転中の携帯電話使用をみかける

6

交通事故の傾向① 郡山市における5年間の推移

図7



郡山警察署・郡山北警察署2012～2016年 交通白書より

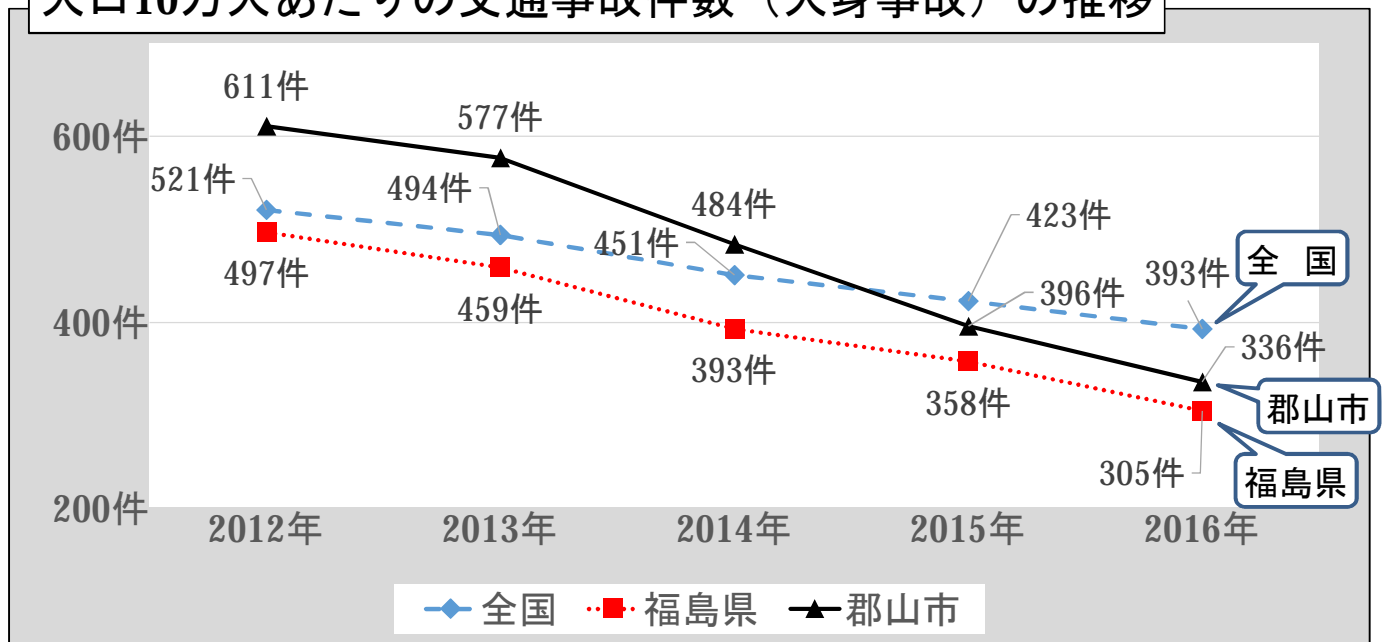
郡山市の交通事故は、減少傾向にあり、2012年の2,011件から2016年には1,128件となり、この5年間で44%減少しています。

7

交通事故の傾向② 全国や県との比較

図8

人口10万人あたりの交通事故件数（人身事故）の推移



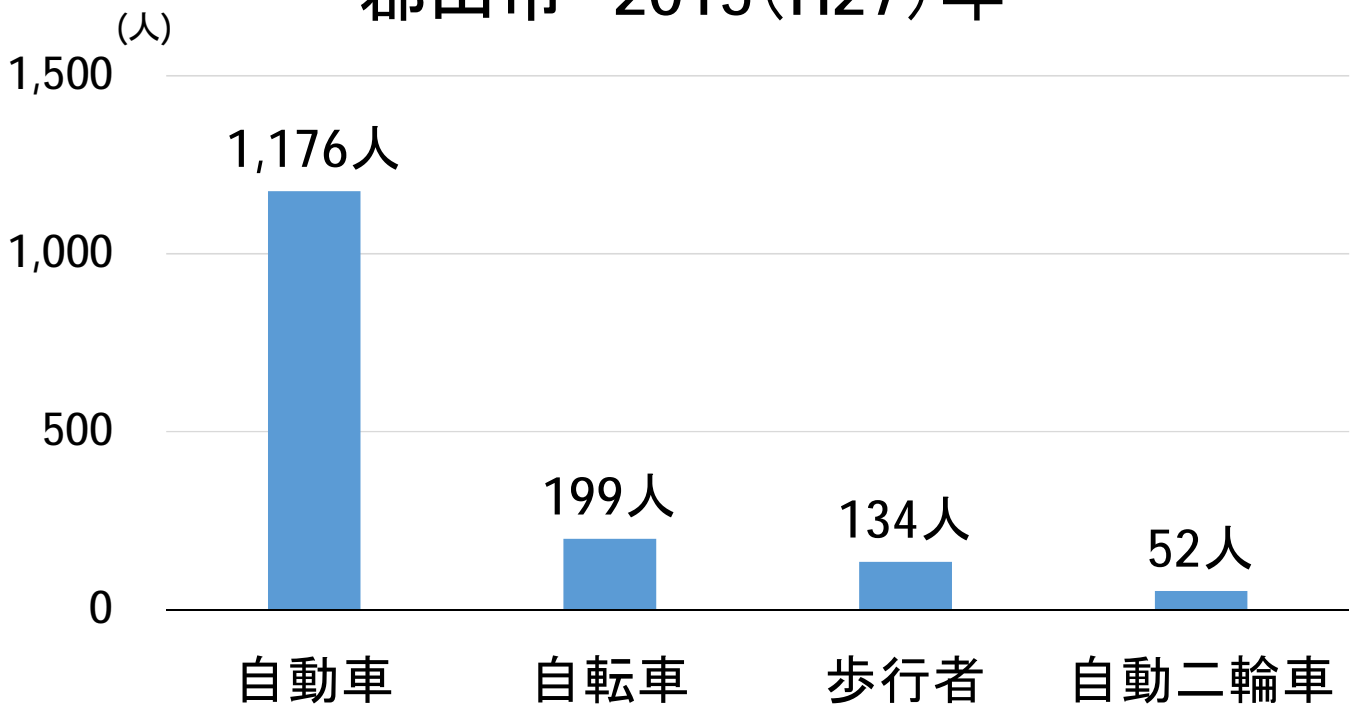
警察庁 警察白書2012～2015、福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署2012～2016年 交通白書より

郡山市は、2014年まで全国及び福島県よりも多い状況でしたが、2015年に全国を下回りました。

交通事故の傾向③ 当事者別死傷者数

図9

郡山市 2015(H27)年



出典：2015(H27)年交通白書(福島県・福島県警察本部)

交通事故の傾向④ 郡山市の交通事故の特徴

図10

No	特 徴	郡山警察署管内	福島県
1	交差点内 の事故の割合	44.8%	35.6%
2	青年運転者 による事故の割合	17.2%	15.9%
3	自転車 の事故の割合	14.7%	10.2%
4	夜間の事故 の割合	31.3%	27.6%
5	出会い頭 の事故の割合	32.0%	25.5%

出典：警察庁、郡山警察署「交通白書」2015年中の交通事故の特徴

5つの特徴

主観的な検討と一致

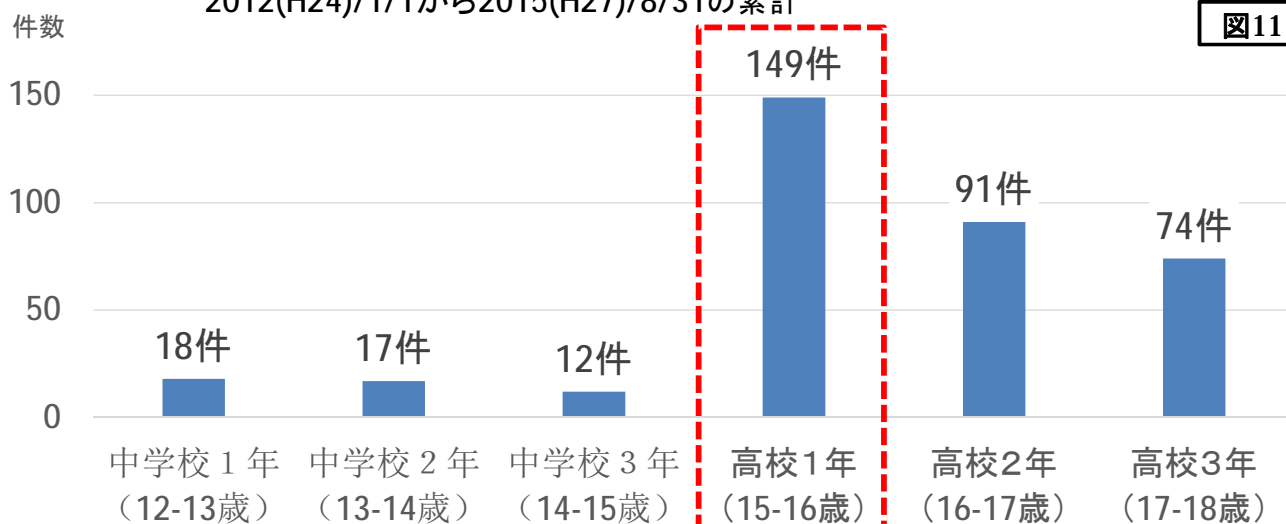
10

交通事故の傾向⑤ 自転車事故の多い年代（郡山市）

中学生から高校生までの発生件数

2012(H24)/1/1から2015(H27)/8/31の累計

図11



出典 郡山警察署「小学生から高校生までの自転車事故」

高校1年生で大きく増加し、徐々に減少

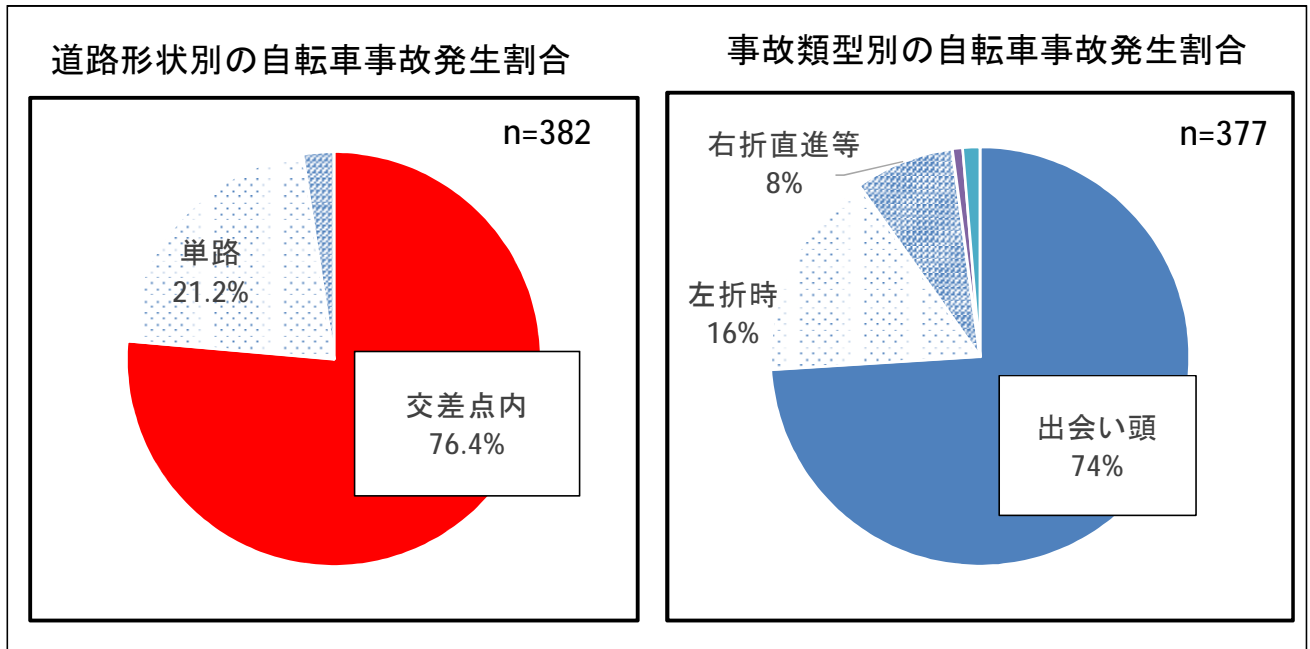
郡山市の通学手段の特徴 中学校 → 徒歩が多い

高 校 → 自転車が多い

11

交通事故の傾向⑥ 小学生から高校生の 自転車事故の特徴（郡山市）

図12

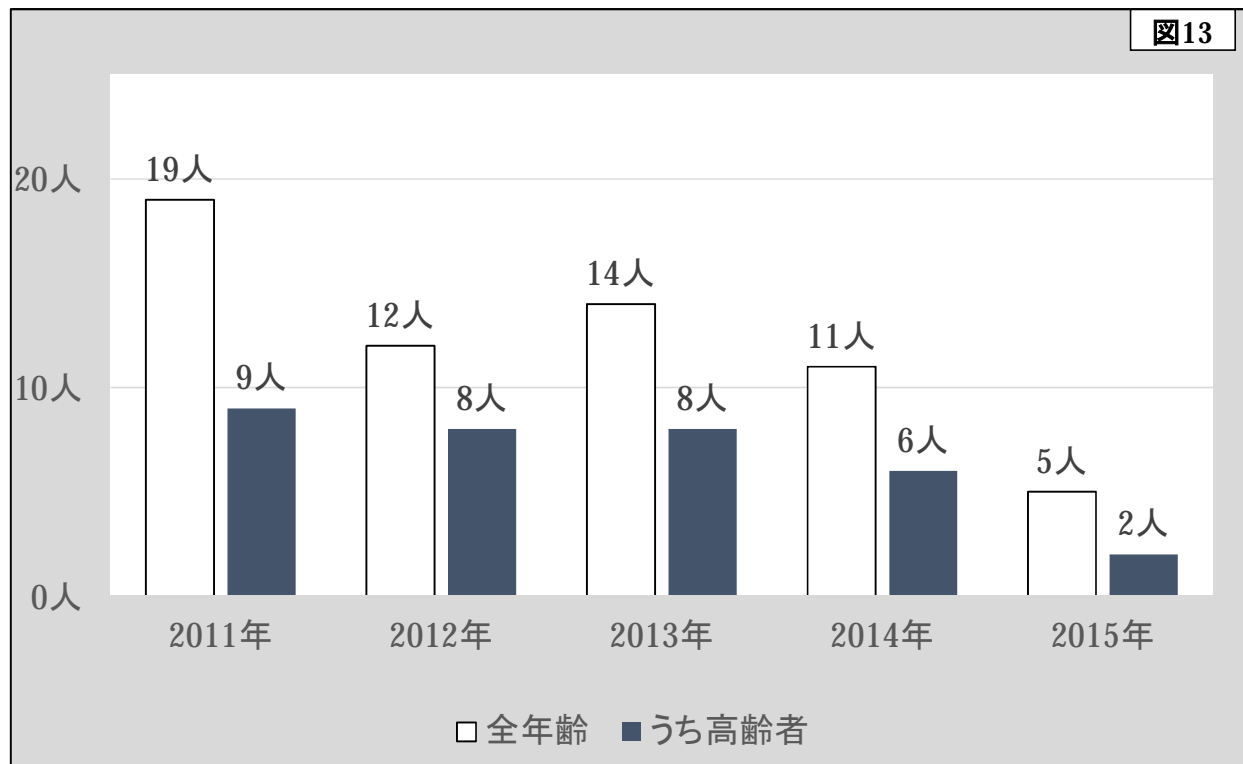


出典 郡山警察署「小学生から高校生までの自転車事故」 2012(H24)/1/1から2015(H27)/8/31の累計

交差点内の事故が多い 出会い頭の事故が多い

交通事故の傾向⑦ 交通事故死者数の推移（郡山市） 交通事故死者数の約半数が高齢者

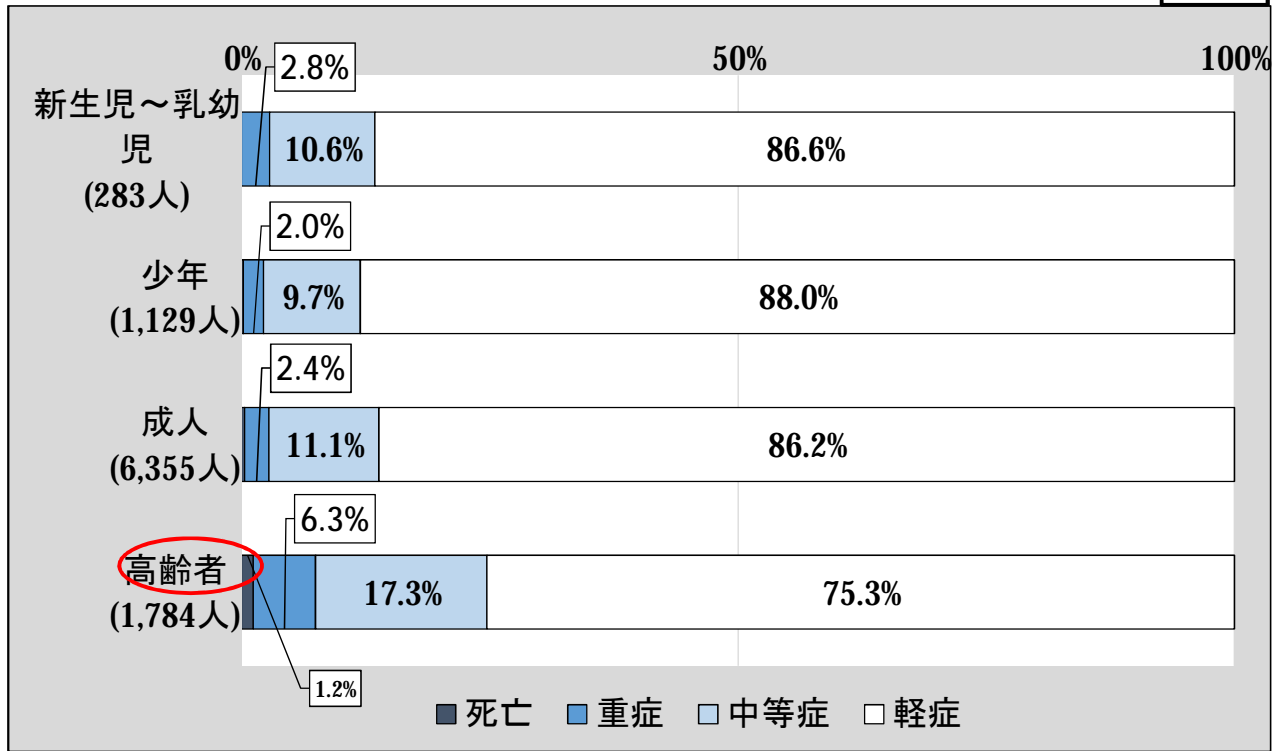
図13



郡山警察署・郡山北警察署2011～2015交通白書より

郡山市の交通事故による救急搬送の世代別重症度

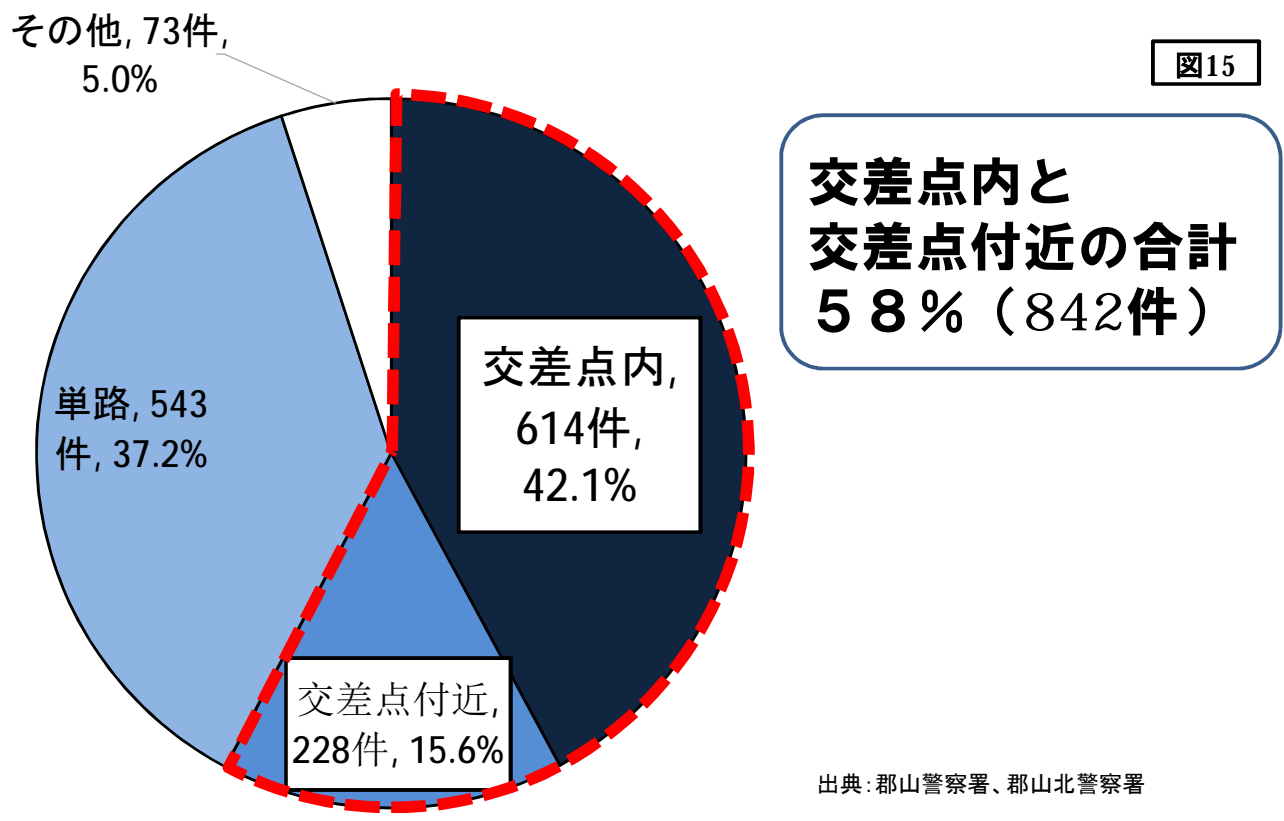
図14



郡山地方広域消防組合「2010～2016年救急搬送データ（国表）」より

交通事故の傾向⑧ 郡山市の道路形状別事故件数 2015年(H27)

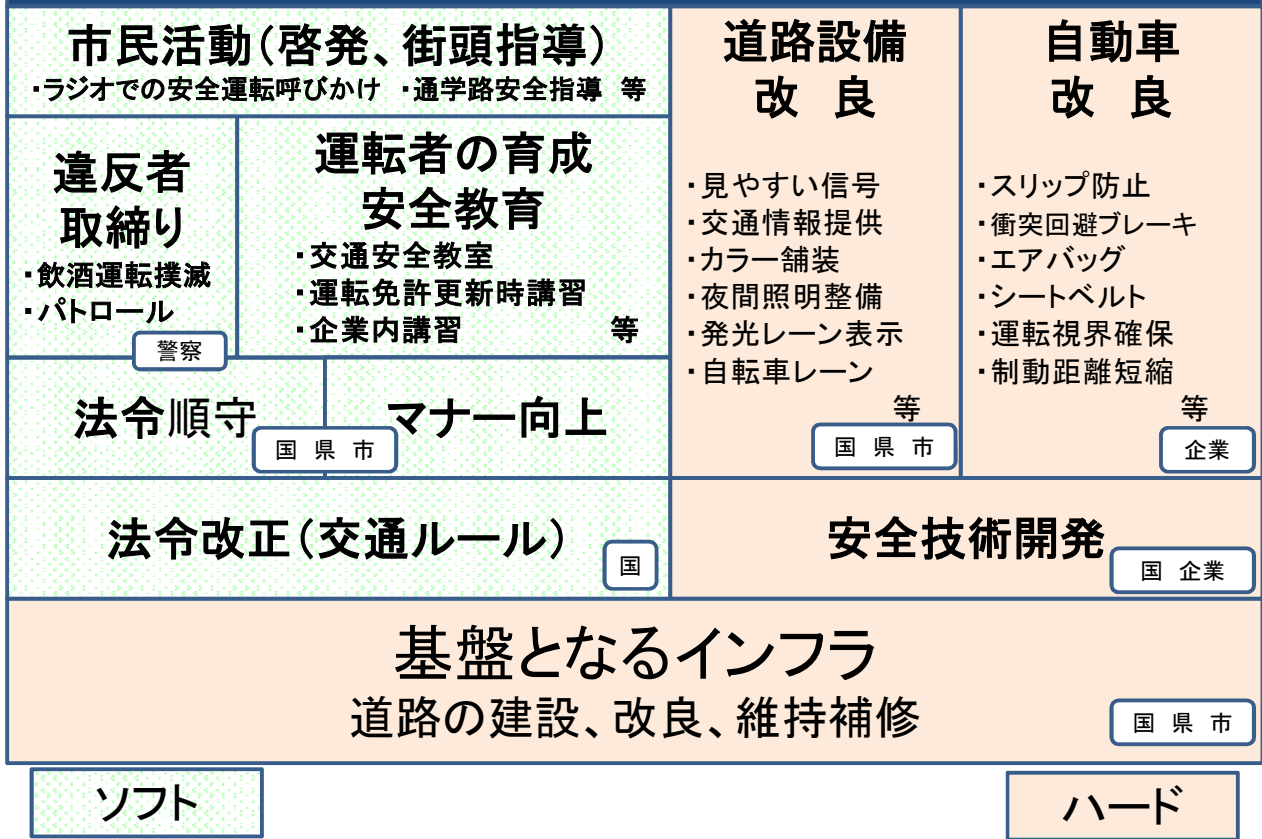
図15



出典：郡山警察署、郡山北警察署

交通事故を防ぐ取り組み ハード、ソフト両面で

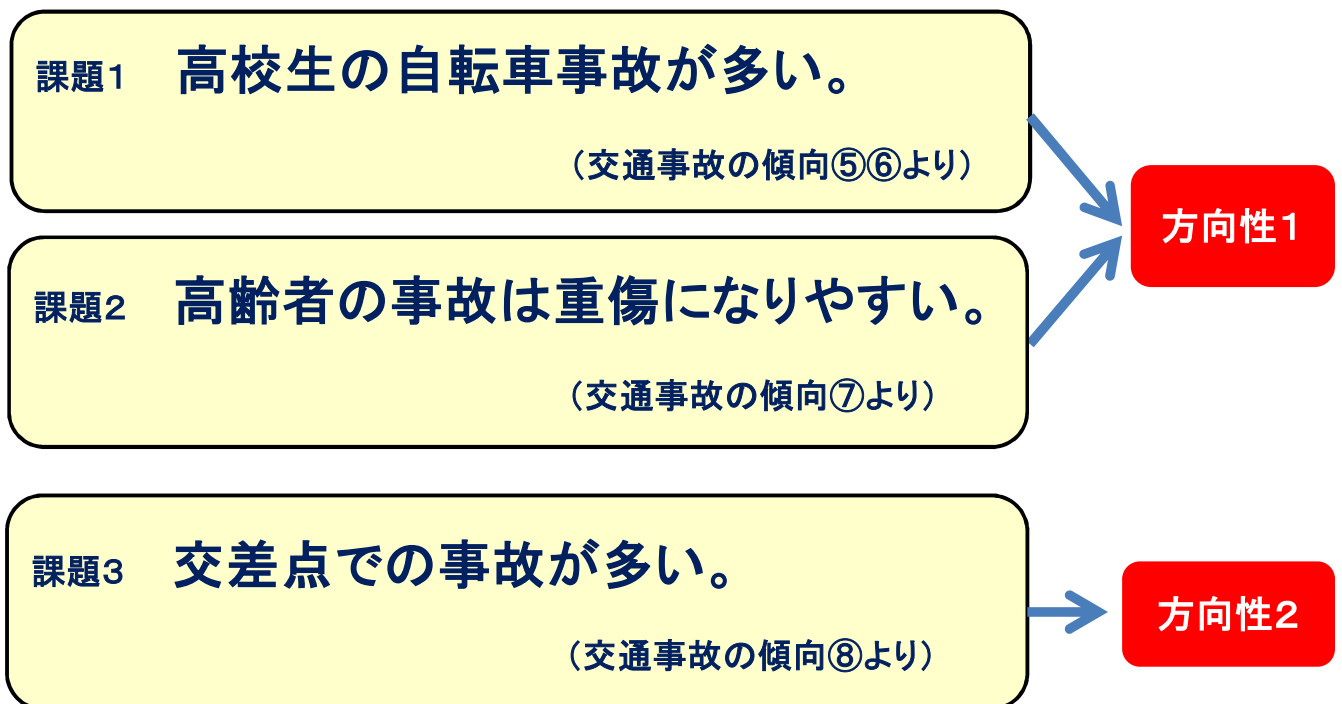
一人ひとりの安全意識の向上、事故の減少 図16



16

現在の重点課題

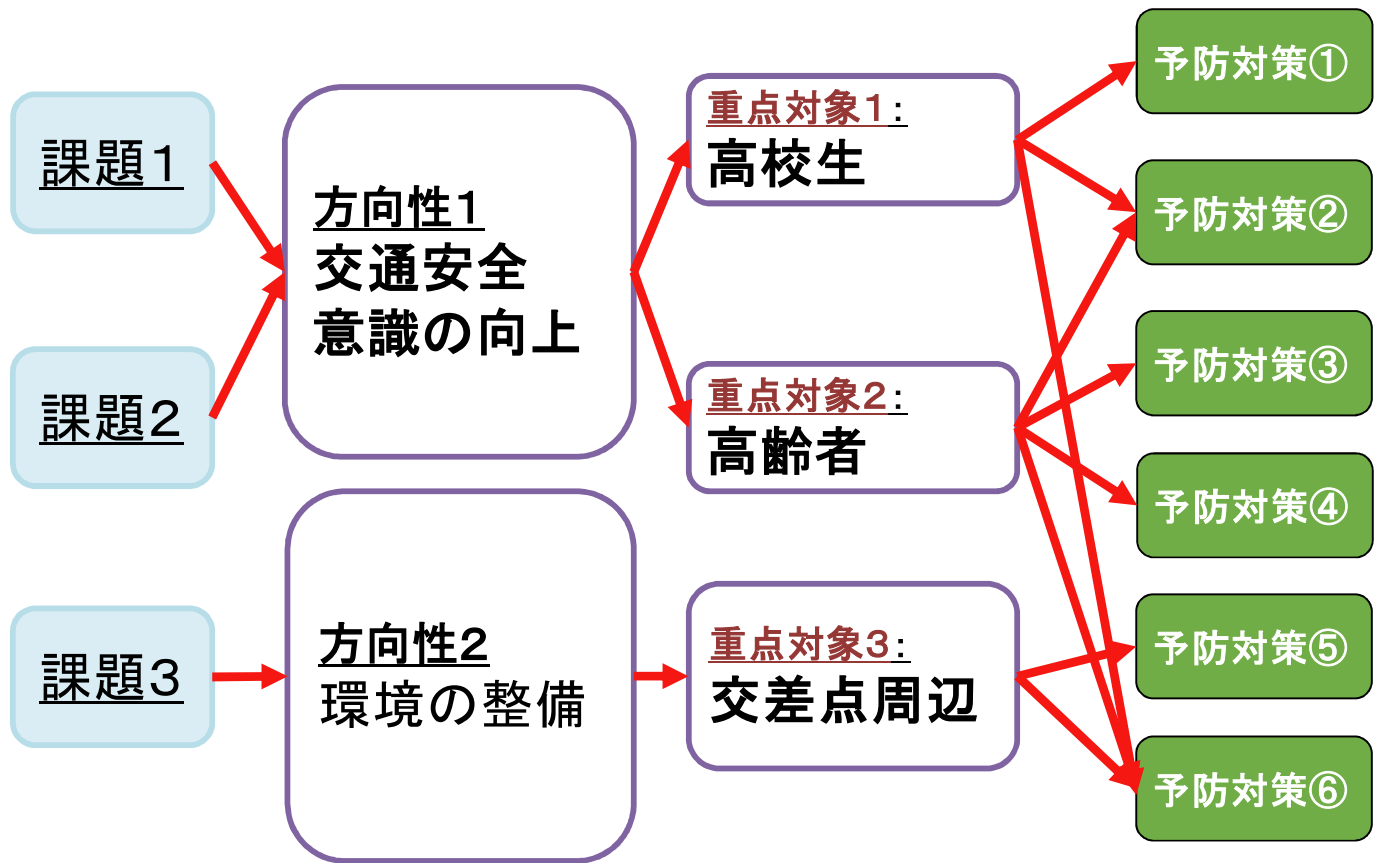
図17



17

課題、方向性、重点対象、取組の整理

図18



現在の取り組み 国・県・警察、市、地域レベル

図19

		国・県・警察	市	地域レベル
重点課題① 高校生の 自転車事故	環境改善	道路環境の改善		通学路安全点検
	規則・罰則	交通法令・取り締まり		
	教育・啓発	悪質違反者講習	交通安全教室	通学路安全指導
重点課題② 高齢者の事故 は重傷	環境改善	道路環境の改善		見守り活動
	規則・罰則	交通法令・取り締まり		
	教育・啓発	運転免許更新時講習	交通安全教室	家庭内での声かけ
重点課題③ 交差点での事 故が多い	環境改善	道路環境の改善		危険個所の把握
	規則・罰則	交通法令・取り締まり		
	教育・啓発	運転免許更新時講習	交通安全教室	街頭啓発

既存の取組の例1

図20

スケアードストレートを取り入れた交通安全教室

◆横断歩道での事故



◆自転車を起因とした事故



◆大型車トラックの内輪差による事故



◆大型車の死角による事故



スケアードストレート
⇒事故を目の前で再現し、
危険性を直視する手法

20

既存の取組の例2

図21

通学路の合同安全点検



通学路の安全点検



通学路の改善

児童・生徒の通学時に、警察、交通関係団体、道路管理者、学校関係者等が通学路の安全性を確認し、改善等について検討。

対策前

対策後



検討した内容に基づき、交差点や歩道部分のカラー化。

21

交通安全対策委員会の取組 その1

改善

- 重点課題①** 高校生の自転車事故が多い
- 方向性①** 交通安全意識の向上
- 重点対象** 高校生
- 予防対策①** スケアードストレート教育法によるDVD教材の配付、教育実施

配布した自転車事故防止教材DVD

図22



プログラム

- ・交通事故の現状
- ・自転車事故の事例
- ・自転車安全利用五則

22

交通安全対策委員会の取組 その1

改善

内容

スケアードストレートを取り入れた教材DVDを市内の高校13校に配付。DVDを視聴してもらい交通安全の意識向上を図る。

実績

2017年6月に対策委員会委員が直接訪問し、市内13の高校に配付。DVD視聴による交通安全意識の向上をアンケートで測定。

実施者

対策委員会、市内の高校、警察、市

対象

市内中学生、高校生

SCを始めてからの変化

DVDを配付してから、高校生の自転車専用レーン利用者が体感的に増加

23

交通安全対策委員会の取組 その1

アンケート その1 通学時の自転車利用について

回答者 郡山市内に通学している高校生(7校・948名)

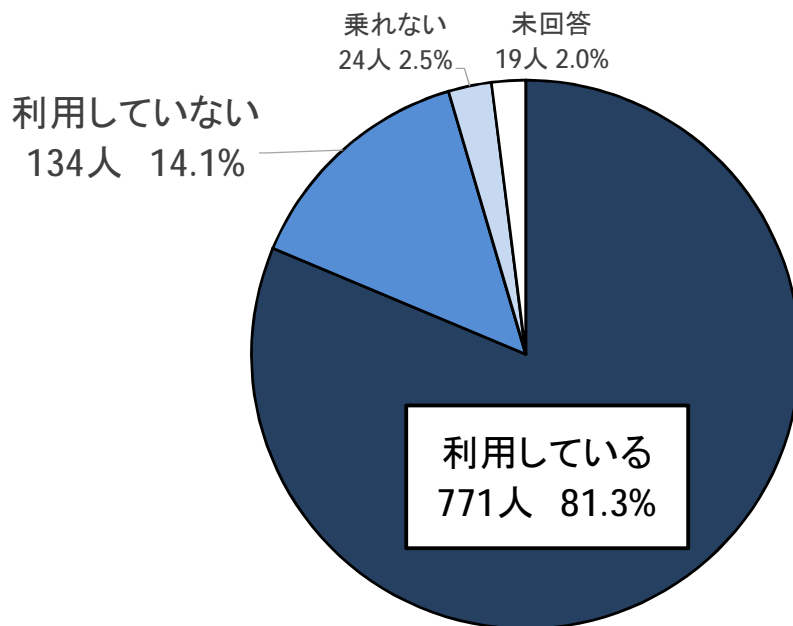


図23

出典：交通安全対策委員会「教材DVD視聴アンケート2017」

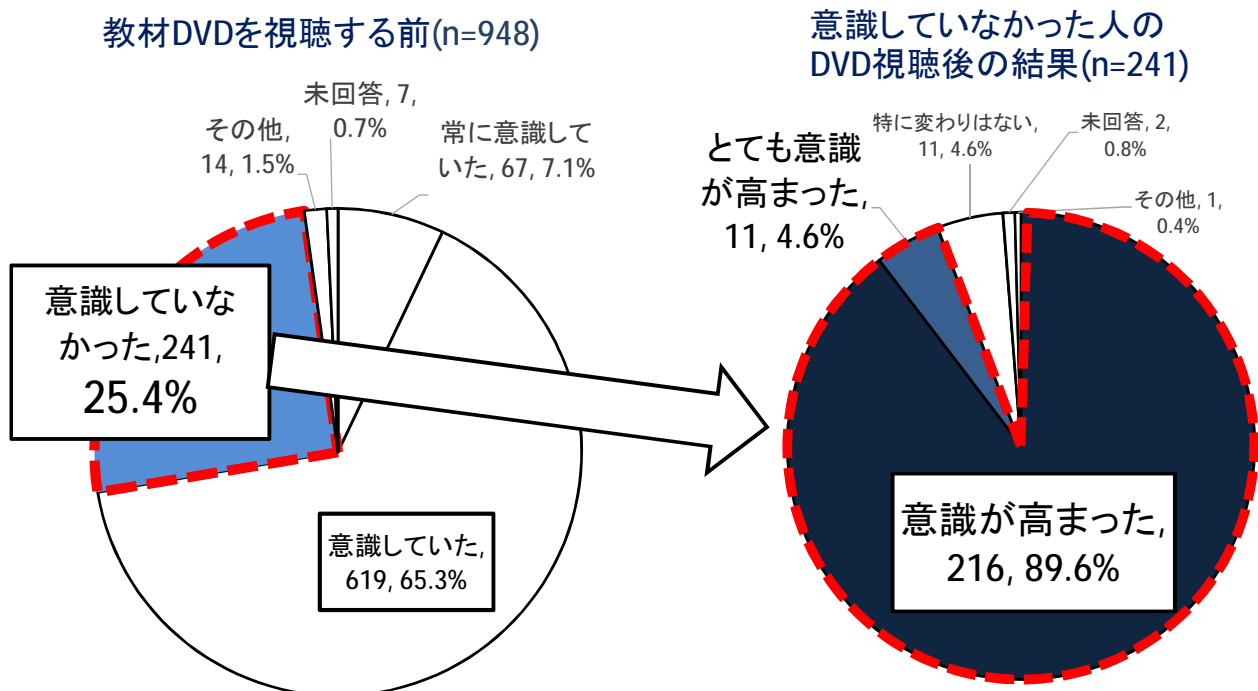
948名のうち約8割(770名)の生徒が自転車利用による通学

交通安全対策委員会の取組 その1

アンケート その2 交通安全に対する意識について

意識していなかった生徒の約9割が、視聴後意識が高まったと回答

図24



出典：交通安全対策委員会「教材DVD視聴アンケート2017」

交通安全対策委員会の取組 その2

新規

重点課題

①②③

高校生の自転車事故が多い
高齢者の事故は重傷になりやすい
交差点の事故が多い

方向性①

交通安全意識の向上

重点対象

高校生、高齢者を中心とした市民

予防対策②

交通事故多発交差点マップの作成と配布

図25



2016年版セーフコミュニティパンフレット

掲載物

- ・パンフレット
- ・ポスター
- ・チラシ

26

交通安全対策委員会の取組 その2

新規

内容

市内で交通事故が多い交差点を地図に落とし込み、市で初めてとなる交通事故多発交差点マップを作成。様々な組織団体と協力し、配布した。

実績

啓発品

- パンフレット及びチラシ(2016年度)
2017年2月作成。2017年2月市内小学校61校、中学校28校の児童・生徒に配布。また、セーフコミュニティの説明会、イベント等で計9,390人に配布
- ポスター(2017年度)
2017年10月作成。市外から通勤している方に周知するため、今後、工業団地会等に1,000部を配布予定。

実施者

対策委員会(交通安全、子ども、高齢者)、交通教育専門員、交通安全母の会、交通安全協会、警察 等

対象

中学3年生、高校生、高齢者

27

交通安全対策委員会の取組 その3

改善

重点課題② 高齢者の事故は重傷になりやすい

方向性① 交通安全意識の向上

対象 高齢者

予防対策③ 交通安全教室の拡大



内容

- ・楽しく学ぶことができる交通安全教室の実施
- ・高齢にともなう身体能力の自覚を促す

28

交通安全対策委員会の取組 その3

改善

内容

高齢者の学習機関と連携し、交通安全教室に寸劇を取り入れて、楽しく学ぶ交通安全教室の開催規模を拡大する。

実績

○2017年6月 高齢者の学習会（受講者：約40名）

○2017年7月 あさかの学園大学（受講者：約50名）

実施者

市、あさかの学園大学、高齢者クラブ、交通教育専門員、警察署、交通安全協会、交通安全母の会

対象

高齢者

SCを始めてからの変化

高齢者の事故は重傷になりやすいという状況に対し、高齢者の交通安全教室の開催が少ないことに気付き、取組みの一つとして実施。

29

交通安全対策委員会の取組 その4

新規

重点課題②

高齢者の事故は重傷になりやすい

方向性①

交通安全意識の向上

対象

高齢者

予防対策④

高齢者の運転免許証自主返納の促進

～ 自動車の維持費とタクシー利用の料金比較 ～

図26



掲載内容

- ・運転免許証返納制度の概要
- ・運転時認知症チェックシート
- ・自動車維持経費とタクシー利用料金比較

30

交通安全対策委員会の取組 その4

新規

内容

市の事業である運転免許証自主返納制度の概要に、運転時認知症チェックシートと自家用車維持費とタクシー利用料金とを比較した内容のチラシを作成し配布する。

実績

●チラシ

2017年9月作成。2017年10月「あさかの学園大学」の学生約800名に配布

※ 今後は、身体の不自由な方や一人暮らしの高齢者などをお世話する民生員を通じて、各地区の高齢者にも配布予定。

実施者

対策委員会(交通安全、高齢者)、あさかの学園大学学生会 等

対象

高齢者

31

その結果・・・

高齢者の運転免許証自主返納者

【2017.8.31現在】 92名

うちバス・タクシー利用券交付者

【2017.8.31現在】 73名



運転免許証自主返納者が増えることで期待される効果

- ・ 不安を感じながら自動車を運転する高齢ドライバーが減少することで、交通事故の減少につながる。
- ・ 運転免許証返納者の家族の安心感が増す。
- ・ 高齢者同士が自主返納について考える契機となる。

重点課題③	交差点の事故が多い
方向性②	道路環境の整備
対象	交差点周辺
予防対策⑤	交通事故多発地点の事故防止対策

図27



内容

- ・ 交通事故多発交差点等への注意喚起看板設置依頼

交通安全対策委員会の取組 その5

改善

内容

交通事故多発交差点マップをもとに注意喚起看板の設置や交通事故啓発のぼり旗の位置確認を依頼する。

実績

2017年9月 郡山地区交通安全協会に注意喚起看板の設置等を依頼。
※ 今後、看板設置等について検討予定。

実施者

交通安全対策委員会、郡山地区交通安全協会

対象

交差点

34

交通安全対策委員会の取組 その6

改善

重点課題

①②③

高校生の自転車事故が多い
高齢者の事故は重傷になりやすい
交差点の事故が多い

方向性②

道路環境の整備

対象

交差点周辺

予防対策⑥

交差点の実地調査



(対策例) 交差点カラー化



図28

内容

- ・交通ビッグデータを活用した生活道路の安全対策
- ・交差点のカラー化や路面標示

35

内容

生活道路における交通安全対策

実績

- 2015年度 「神明・桃見台地区」を対策エリアとして登録
- 2016年度 交通ビッグデータの解析、現地調査、対策手法の検討
- 2017年度 対策実施(予定)

実施者

国、県、市、警察、地区内の各学校、地域住民など

対象

交差点(住宅地における生活道路)



危険箇所の現地調査

活動指標と成果指標

図29

重点課題	取組み	活動指標	短期・中期	長期
1	交通事故多発交差点マップの作成、配布、啓発	・マップ配布数 ・マップ配付先数	安全意識の変化 (アンケート)	事故件数
	スケアードストレイトを活用した交通安全教室	・教材DVD配布数 ・開催回数	参加者の交通意識の変化	
2	交通安全教室	・開催回数	参加者の交通意識の変化	
	運転免許証自主返納の促進	・開催回数		
3	交通事故多発地点の事故防止対策(看板、のぼり旗、案内表示の改善等)	・看板等の設置数 ・案内表示の改善件数	環境を改善した交通事故多発地点数	
	交差点の現地調査	調査回数	道路管理者への提案件数	

現在までの活動実績

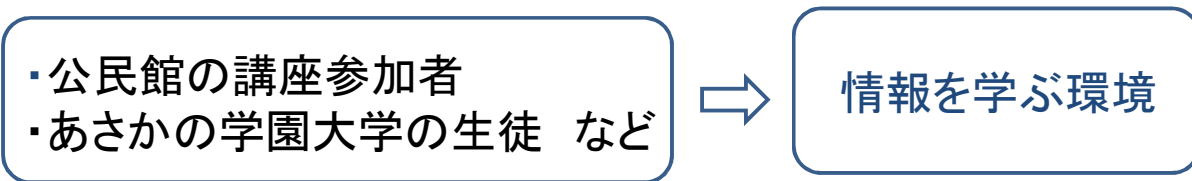
図30

重点課題	実施した対策	実績数
課題1 高校生の自転車事故が多い	スケアードストレイトを取り入れた教材DVDの活用(中学・高校を対象)	・2017年高校13校、中学校28校に配付 ・高校7校で安全教室を実施 ・アンケートによる効果測定(7校948名)
課題2 高齢者の事故は重傷になりやすい	・啓発チラシの配布 ・運転能力の自覚を促す ・高齢者が交通安全について話し合う。	・安全講座(2017年) 高齢者の学習会40名 あさかの学園大50名
課題3 交差点での事故が多い	・交通事故多発交差点マップの作成及び配布 ・交通事故多発交差点マップのポスター化	・交通事故交差点マップ15,000部作成(2017年) イベント、会議等で配布 ・マップのポスター化1,000部作成(2017年)

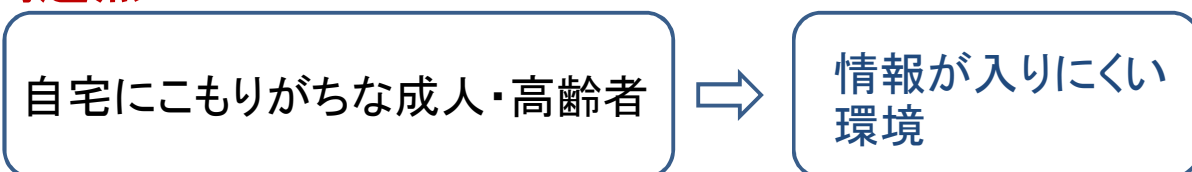
現時点における問題点

交通安全対策委員会の取り組みの周知方法は・・・

公民館や高齢者の大学「あさかの学園大学」を通じてチラシ等での啓発を行なっている。



問題点



どのように、取り組みを広く周知すべきか・・・ ←

御清聴ありがとうございました

